



CHAPTER

## 第6章

# 地域のまちづくりの 推進

## 1 地域まちづくり構想

- (1) 地域まちづくり構想の狙い
- (2) 地域まちづくり構想の構成
- (3) 地域まちづくり構想を策定する地域
- (4) 地域まちづくり構想の策定の流れ

## 2 学術文化・交流・創造ゾーン

# 1

# 地域まちづくり構想

個性豊かで魅力的な地域でのまちづくりを円滑に進めていくために、住民・事業者・行政をはじめとした地域の多様な主体の共済（パートナーシップ）により、地域が本マスターplanの都市計画の方針に沿って検討した地域の「将来像」と「まちづくりの方針」について、行政が都市計画審議会に報告したうえで、都市計画マスターplanの「地域まちづくり構想」として策定します。

工場の新設や建替えなどによる都市の活力を生み出すまちづくり、身近な住環境を保全するまちづくり、都市のにぎわいを生み出すまちづくり、「大学のまち」「学生のまち」を支えるまちづくりなど、その地域の将来像の実現に向け、地区計画などの都市計画手法を活用し、都市計画として積極的に支援することで、地域まちづくり構想の早期実現に向けたまちづくりを推進していきます。

## ■地域でのまちづくりの様子



## 地域まちづくり構想の留意点

- 1 地域まちづくり構想の「地域」とは、多様な主体の参加で創られた将来像を持ち、都市計画の支援などによってまちづくりを推進していく地域をいい、町内や小学校区から行政区をまたぐものまで考えられます。
- 2 地域まちづくり構想は、全体構想や方面別指針に即すとともに、単一敷地・単一用途など特定の土地利用を想定するものは、原則として地域まちづくり構想に位置付けないこととします。

## (1) 地域まちづくり構想の狙い

### ①多様な主体による円滑なまちづくりを推進する

地域のまちづくりを円滑に進めていくためには、住民・事業者・行政などの多様な主体が、それぞれの責務と役割を果たしていくことが必要です。

地域まちづくり構想として、地域の将来像とその実現に向けたまちづくりの方針をはじめとする様々な取組を明示することにより、住民・事業者・行政が共に考え、その内容を共有し、より適切な役割分担と連携による円滑なまちづくりを推進することができます。

### ②様々な変化に対応するまちづくりを推進する

大規模な工場跡地などの土地利用転換や地域での新たな課題など様々な変化に対しても、都市全体の活力の維持・向上を図るため、都市計画として柔軟かつ迅速に対応していくことが必要です。

地域のまちづくりの熟度に応じた地域まちづくり構想を地域ごとに順次策定し、都市計画マスターplanに追加することで、様々な変化に対応しながら、地域でのまちづくりを進めることができます。

### ③より多くの市民が関心を持つことによりまちづくりを推進する

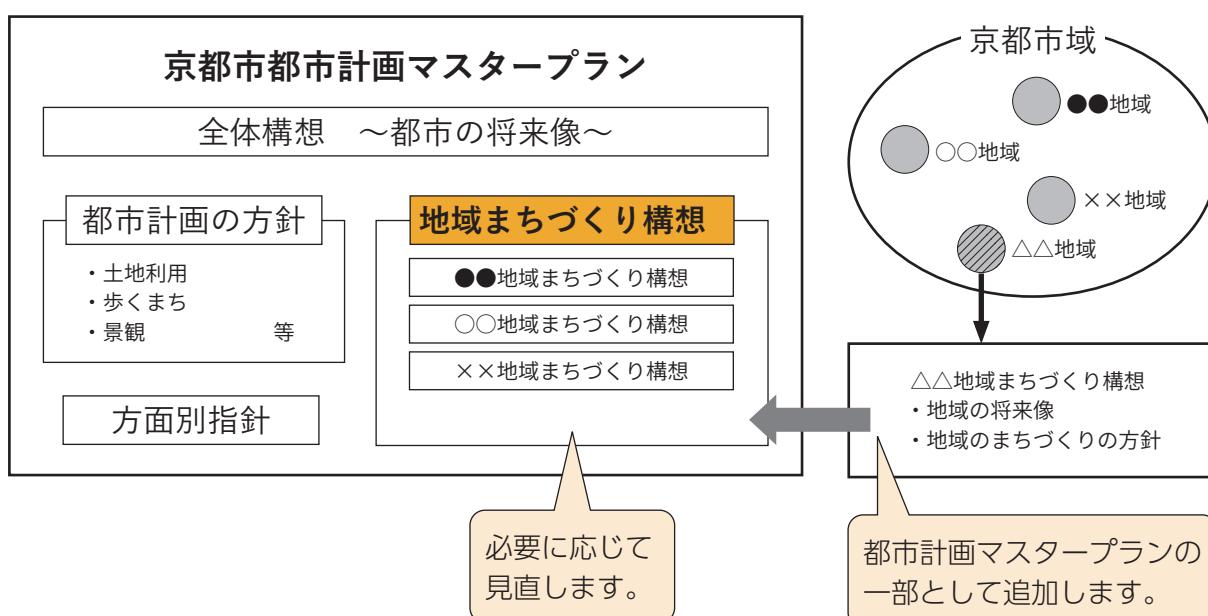
市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくりを推進していくためには、より多くの市民や事業者がまちづくりに対して関心を持つことが重要です。

地域まちづくり構想を策定し、都市計画マスターplanに追加し、充実させることで、より多くの市民が都市計画マスターplanを身近に感じるとともに、まちづくりへの関心が高まり、魅力的なまちづくりが広がることが期待されます。

## (2) 地域まちづくり構想の構成

地域まちづくり構想は、都市計画マスターplanの一部として、以下のとおり構成されます。策定した地域まちづくり構想は、必要に応じて追加・見直しを行います。

### ■地域まちづくり構想の構成



### (3) 地域まちづくり構想を策定する地域

地域まちづくり構想における「地域」とは、個性豊かで魅力的な地域でのまちづくりを円滑に進めていくために、住民をはじめとした多様な主体の共済（パートナーシップ）によりつくられた地域の「将来像」を持ち、都市計画の支援などによって、まちづくりを推進していく地域（範囲）のことといいます。

地域の将来像と地域のまちづくりの方針は、全体構想や方面別指針に即すことが必要です。地域でのまちづくりにおいて都市計画手法を活用するに当たっては、都市構造や周辺に与える影響なども考慮し、また、住民や事業者などが地域の合意形成を図ったうえで、それぞれの地域にふさわしい将来像と地域のまちづくりの方針を定める必要があります。地域の大きさは、「将来像」や「まちづくりの方針」を共有する範囲であり、様々なものが考えられます。

#### 参考：構想の策定が望まれる地域の一例

##### ①緊急に対応すべき課題のある地域

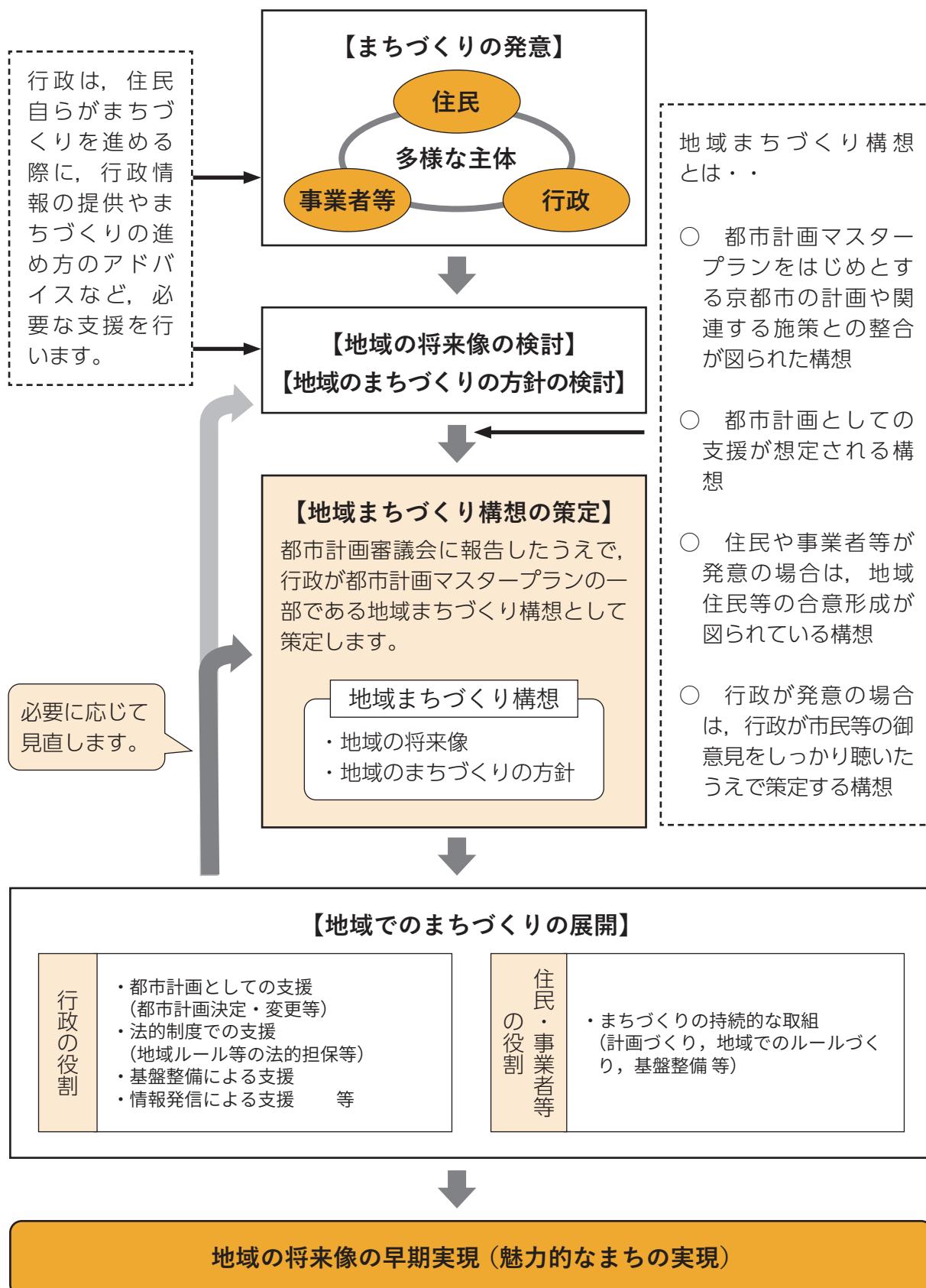
- ・ 予期せぬ工場の廃止に伴い出現した跡地など、大規模な低未利用地による都市の空洞化や無秩序な開発、周囲との調和が図られていないまちの形成などの可能性があり、都市に大きな影響を与える地域
- ・ 周辺への影響の大きい大型施設の立地に際して、周辺も含めたまちづくりが必要な地域等

##### ②より地域の魅力を高めるための活発なまちづくりが行われようとする地域

- ・ 利便性の向上、安全性の向上やブランド価値の向上などにより、その地域の価値や魅力をより高めるまちづくりが行われようとしている地域等

##### ③各区基本計画に基づき、まちづくりを進めようとする地域

#### (4) 地域まちづくり構想の策定の流れ



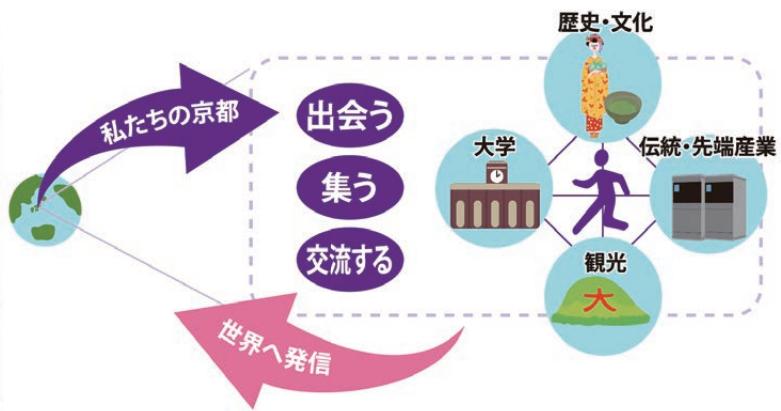
## 2

# 学術文化・交流・創造ゾーン

千年を超えて、先人たちの知恵と挑戦により、幾度となく大きな危機を乗り越えてきた京都のまちは、歴史や文化、観光資源などが市域の隅々まで存在し、特色ある多様な地域がネットワークしており、従来の枠組みを超えた新たなまちづくりが市内各地で生まれるポテンシャルを秘めています。

これからも京都が京都であり続けるためには、こうした地域・住民レベルの小さな取組やニーズを早い段階から拾い上げ、地域に根差した文化として育んでいくことが重要です。

そこで、市内全域を対象として「学術文化・交流・創造ゾーン」の形成を図り、京都ならではの持続可能な都市の構築に向け、迅速かつ効果的な施策の展開につなげることを検討します。



## 第6章

- ◆ 多様な人々の交流や技術の融合を通じて、歴史、文化、大学、伝統・先端産業といった京都ならではの資源を活用しながら、新たな魅力や価値の創造を目指すために必要な施設の充実などを図ります。
- ◆ 各地域のポテンシャルを最大限引き出せるよう、都市計画手法を含めたあらゆる関係施策との連携を強めて積極的に支援を行い、まちづくりの新たな担い手の呼び込みなどにつなげます。

## 『主な地域の将来像と暮らしのイメージ』

- 地域の文化・コミュニティや歴史的な町並みが維持されながら、伝統と最先端技術の融合や京町家の多様な活用などが進み、クリエイティブ産業を支える拠点が創出されている。
- 地域や事業者が一体となってクリエイティブなまちづくりの機運が高まり、アートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な活動が展開されている。
- 住む人、訪れる人の双方が、ほんものの歴史や文化、伝統産業に触れることのできる環境の充実により、地域に対する愛着が増し、京都ファンが増えるとともに、地域の文化やコミュニティの担い手の育成にもつながっている。
- 活気ある商店街やその周辺において、オープンスペースを活用した歩きたくなる空間の形成により、これから暮らしにも対応しながら新たな出会いや交流が促進され、更なるにぎわいが生まれている。
- 大学の周辺において、住環境とも調和したオフィス空間やラボ機能の充実により、大学の研究成果をいかした技術やビジネスが生み出されるとともに、学生や若手研究者・起業家などの交流の場となっている。
- 京都ならではのものづくりの発祥の地において、地域の人々が身近にものづくりの歴史や技術などに触れ、地域への愛着が増すとともに、企業間交流も活発に行われ、付加価値の高い製品が生み出されている。
- 自然や歴史資源が豊富な地域において、地域固有の資源をいかした新たな魅力を創出する拠点の充実が図られるとともに、新たな暮らしや働き方のニーズにも対応した環境の整備が進み、移住・定住の促進につながっている。

